

創刊150号記念特集

平成の大合併

新市長、新市民に聞く

スムーズな合併は対等な話し合いの結果



平成大合併の県内第1号として誕生した常陸大宮市の市長

矢数 浩さん(右)

聞き手・磯崎久喜雄副委員長

いよいよ始まった平成の大合併。県内第一号として常陸大宮市が誕生。次いで、日立市、常陸太田市でも合併が行われ、今後も続々と合併が予定されています。新しく誕生した市の市長と市民の方に、合併についてお話を伺いました。

「比較的スムーズに合併できた一番の要因は、五町村が対等に話し合いながら進めたことです。生活圏が同じで、地理的・歴史的にも結びつきが強かったし、念願だった病院建設に合併特例債が使えることになったので、早く合併できたのではないかと」

昨年十月一六日に平成大合併の県内第一号として誕生した常陸大宮市。その初代市長として新市の舵取りを担うことになった矢数浩さんが、当時から振り返りながら穏やかに語ってくれました。

最後に「貴重な自然を維持管理するための財源として、環境税にも期待を寄せている」と結んでくれました。

村が市になってもいいものは変わらぬ

「日が暮れると真っ暗になるけれど、とてもいい。星もきれいだし。何も無いのがいいんですよ」

宗次郎さんは、昨年一〇月の合併で常陸大宮市となった旧緒川村に移り住んで一六年余りになります。緒川に移られてからの二、三年は、毎日、山下刈りをしたり、畑仕事をしたり、「大地に根ざして暮らしているという

自負というか、誇りが持てる感じでした」

当時を振り返りながら、今回の合併について、「ここは昔ながらの生活スタイルが残っているいいところです。市になって発展していくことはすくいいことだと思いますが、いいところはこれからも残していって欲しい。地域の人のための元への誇りみたいなものが、大きな市になっても失われなければならないと思

幅広く活躍されているオカリナ奏者

宗次郎さん(右)

聞き手・黒部博英情報委員



「今後は、「この地域のよさを知ってもらうには来てもらうことが大事で

す。自分のオカリナで多くのの人に来てもらえる機会をつくりたい」と夢を語ってくれました。

旧金砂郷町住民代表として合併協議会の委員を務めた

鈴木 和子さん(左)

聞き手・大高伸一情報委員



地域でのきめ細かい福祉活動が基本

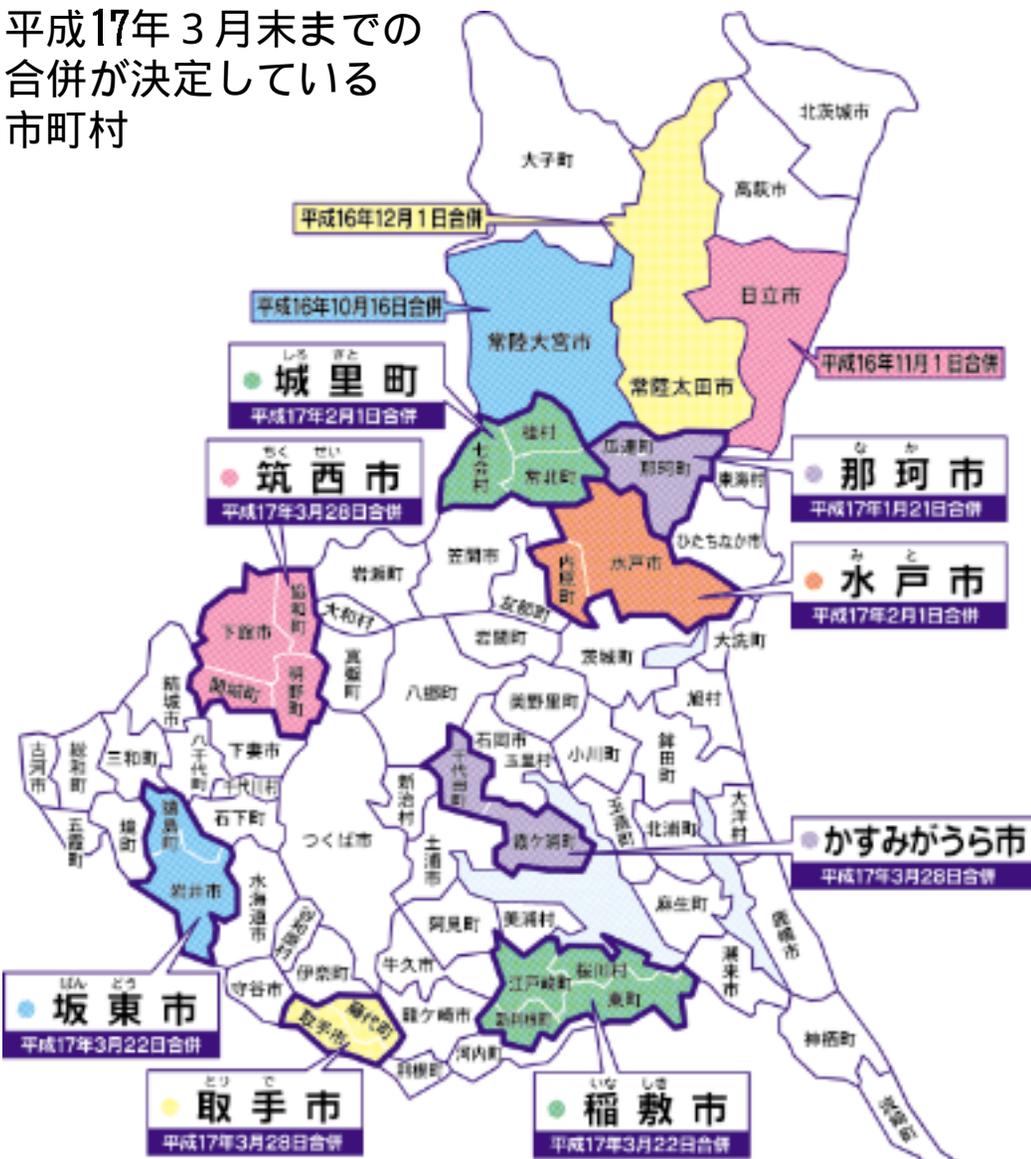
「金砂郷町住民の代表として合併協議に参加しました。勤めが常陸太田市のため不安もありましたが、上司が温かく励ましてくれました」と笑顔で当時を振り返ってくれたのは、結婚して金砂郷町の住民になったという常陸太田市社会福祉協議会事務局長の鈴木和子さんです。

常陸太田市の誕生と同時に社会福祉協議会も合併し、その初代事務局長として、「福祉は一方所

とが基本。合併した他の地域でも小地域福祉活動を進め、お互いの地域の良さを引き出していきたい」と、今後の福祉のあり方について、抱負を熱く語ってくれました。

「常陸太田市では、地元県議の質問を契機に中学生の三級ヘルパー講習が実現しました。先駆的な考え方や活動があればすぐに広がるものですね。成功事例は県が率先して取り入れ、他の地域に広げて欲しい」と、県議会や行政への期待で結んでくれました。

平成17年3月末までの合併が決定している市町村



坂東市 平成17年3月22日合併

取手市 平成17年3月28日合併

稲敷市 平成17年3月22日合併

かすみがうら市 平成17年3月28日合併

那珂市 平成17年1月21日合併

水戸市 平成17年2月1日合併

日立市 平成16年11月1日合併

城里町 平成17年2月1日合併

筑西市 平成17年3月28日合併

常陸大宮市 平成16年10月16日合併

常陸太田市 平成16年12月1日合併